

# 暴風雪に 万全の備えを

今年も冬がやってきました。「毎年のことだから、自分は大丈夫」と思っていないですか？

暴風雪に関する気象警報等が発表されたときは、外出しないことが身の安全を守るための最善の対策です。

暴風雪から身を守るための対策を日頃から理解し、いざというときに備えましょう。

問合せ 総務課総務・防災担当 ☎(23)6111番 内線 2222・2223

## 暴風雪による被害に遭わないために

暴風雪による被害は、晴天から悪天へと天気が急変したときに特に多く発生しています。テレビやラジオなどで悪天が予想されていることを知ったときは、今の天気が良くても油断することなく、最新の気象情報や道路情報などを事前に確認しましょう。また、暴風雪が予想されているときは、無理をせず外出は避けましょう。



気象庁  
あなたの街の防災情報



北海道地区道路情報



北の道ナビ



北海道防災ポータル  
根室振興局

## 家の中で安全に過ごすために

暴風雪による停電に備えましょう。また、暖房機器等の給排気口が雪でふさがれると、一酸化炭素中毒を起こす可能性があります。

## 一酸化炭素中毒対策

- FF式暖房機器の給排気口がふさがれ、一酸化炭素が家の中に充満して命に危険が及ぶ可能性があります。給排気口が雪でふさがれていないか、定期的に除雪状況を確認しましょう。
- ポータブルストーブやカセットコンロを使用する際は、換気を良くして使用しましょう。また、30分に一度はしっかり換気しましょう。
- 発電機を使用する際は必ず屋外で使用しましょう。

## 停電対策

- 暴風雪により停電になる可能性があります。停電に備えて懐中電灯や携帯ラジオ、電気を使わない暖房器具（ポータブルストーブ等）を準備しておきましょう。
- しばらく外出できないことを想定し、食料や飲料水などを備蓄しておきましょう。

## やむを得ず外出するときは

やむを得ず外出するときには、万が一のために防寒具や食料、スコップなどを備えて外出しましょう。

## 外出時の対策

- 視界不良（ホワイトアウト）状態になると、強い風で真っ直ぐ歩くことが困難になります。また、雪で数メートル先も見えなくなり、自分の位置がわからなくなります。近くにコンビニなどの安全な場所があれば移動し、天候の回復を待ちましょう。
- 強風で看板や屋根が飛んでくることがあります。飛ばされてくるものに注意しましょう。
- 体温が奪われて低体温症になる可能性があります。肌の露出を減らし、体温の低下を防ぎましょう。

## 車の対策

- 外出する前に、十分な燃料があることを確認しましょう。
- 車の立ち往生に備え、防寒着、長靴、手袋、スコップ、けん引ロープ、食料など車内に用意して外出しましょう。

## 暴風雪に備えるためのチェックリスト

### ◆家の常備品

- ポータブルストーブ
- モバイルバッテリー
- 防寒着・長靴・手袋
- ラジオ(乾電池)
- カセットコンロ(ガス)
- 懐中電灯
- 食料品
- 飲料水
- 救急医療品



### ◆車の常備品

- 防寒着・長靴・手袋
- スコップ
- けん引ロープ
- ブースターケーブル
- 毛布
- スノーブラシ
- 十分な燃料
- スノーヘルパー

# !! 車が雪に埋まって立ち往生・・・

車が雪に埋まるなどして、身動きが取れなくなってしまった場合は、慌てず、落ち着いて行動し、まずは、JAFなどのロードサービスや近くの人家などに必ず救助を依頼しましょう。避難できる場所や近くに人家などが無い場合は、消防(119番)や警察(110番)に連絡して、車の中で救助を待ってください。

## 車内で救助を待つときは

### 原則エンジン停止

一酸化炭素中毒の危険をなくすにはエンジンを切ることが大切です。防寒着や毛布、新聞紙などで体温の低下を防ぎましょう。



### 一酸化炭素中毒の危険性

車が雪に埋もれたときにエンジンをかけ続けると排気ガスによる一酸化炭素中毒の危険性が生じます。埋もれる深さが深いほど危険です。



### エンジンをかけるときは

防寒等でやむを得ずエンジンをかけるときには、排気管出口を確実に大気に開放し、降雪や吹き溜まりによる再埋没に注意しましょう。



### 窓を開けていても安全とは限りません

風向や窓の開度などの条件によっては、窓を開けていても閉めているとき以上に一酸化炭素中毒の危険性が高くなることもあります。



## 緊急の連絡先

●車の故障・不具合・レッカー移動など

●車の事故・人命救助の要請など

《JAFロードサービス救護コール》

《警察》

《消防》

☎ 0570-00-8139 または #8139 (短縮ダイヤル)

☎ 110

☎ 119

# 北海道・三陸沖「後発地震注意情報」運用開始

## 続いて発生する可能性がある巨大地震・津波への備えを

日本海溝・千島海溝周辺で大きな地震が発生した場合に、国から、より大きな後発地震に備えて注意を呼びかける「北海道・三陸沖後発地震注意情報」の運用が始まりました。

この情報が発信された場合、防災行政無線や根室市公式 LINE などを通じて皆さまにお知らせします。

日頃から地震への備えや、直ちに津波から避難できる態勢の準備など、必要な防災対策をお願いします。

### 01 「後発地震注意情報」が 発信される条件は？

北海道の太平洋沖から東北地方の三陸沖の巨大地震の想定震源域およびその領域に影響を与える外側のエリアにおいてマグニチュード 7.0 以上の地震が発生した場合など。

### 02 「後発地震注意情報」は どのようにして発信される？

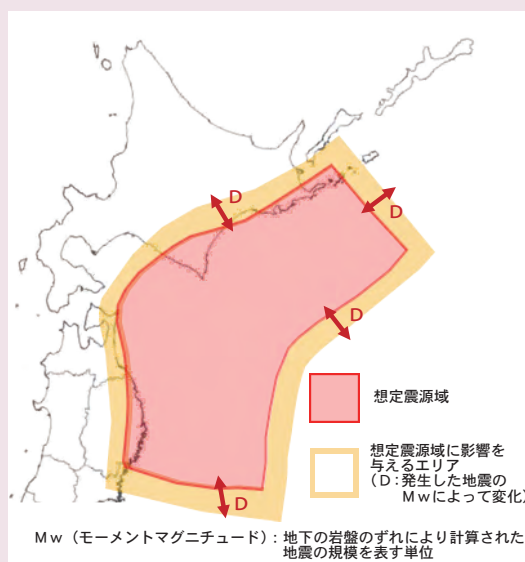
#### ◆内閣府および気象庁からの発信

気象庁において、発生した地震の規模を推定（地震発生後 15 分～2 時間程度）し、情報発信の条件を満たす先発地震であると判断された場合、内閣府および気象庁の合同記者会見により発信されます。

#### ◆市からの発信

内閣府および気象庁から「北海道・三陸沖後発地震注意情報」が発信された際に、**防災行政無線や市公式 LINE、ねむろメールなどにより市から情報発信を行います。**

#### 巨大地震の想定震源域とそれに影響を与えるエリア



### 03 「後発地震注意情報」が 発信されたらどうすれば？

この情報が発信されてから**1週間程度は、家具の固定など平時からの地震への備えを再確認するとともに、揺れを感じたり、津波警報等が発表された場合に直ちに避難できるように準備をしておきましょう。**

#### 防災 Column 東日本大震災のときは(2011年)

3月9日  
M 7.3

約2日後

3月11日  
M 9.0

#### 択捉南東沖地震のときは(1963年)

M 7.3

約18時間後

M 8.5

**※情報が発信されたとしても、必ず巨大地震が発生するとは限りません。**

(マグニチュード 8.0 以上の後発地震が発生する確率は 100 回に 1 回程度といわれています。)

# ご家庭の『備え』を いま一度、確認しましょう

## 避難場所・

### 避難経路の確認

根室市防災ハザードマップを活用し、避難場所や避難経路を事前に確認しましょう。

※屋外の高台等に一時避難する場合は、屋内施設への二次避難先まで見据えた避難経路も確認しておきましょう。



▲WEBマップ

## 家具等の固定

大地震が発生したときには「家具は必ず倒れるもの」と考え、転倒防止対策を確認しておきましょう。

《家具転倒防止対策の例》

- ・家具等が転倒しないように、壁に固定できているか確認しましょう。
- ・ベッドの頭上・高い場所に物がいないか確認しましょう。
- ・暖房器具の転倒防止対策を確認しましょう。

## 出火・延焼防止に

### 係る装備の確認

住宅用消火器等の準備、使用方法の再確認をしておきましょう。

※屋外灯油タンクが倒れていないか、燃料が安全に備蓄されているかの確認もしておきましょう。

## 家族等との安否確認手段の取決め

別々の場所にいるときに災害が発生した場合でも、お互いの安否を確認できるよう安否確認の方法や家族の集合同所、連絡手段等を事前に話し合っておきましょう。

《災害伝言ダイヤル》

「171」に電話をかけ、伝言を録音

《災害用掲示板》

インターネットの掲示板サービスを仕様して文字で情報を登録

## 避難生活などに備えた

### 備蓄・装備の確認

- ・電気やガス、水道などのライフラインが止まった場合に備えて、飲料水、食料品、燃料、携帯トイレ等の備蓄を確認しておきましょう。
- ・停電時においても必要な情報を得るため、携帯ラジオ、携帯電話の充電器、予備バッテリー等も確認しておきましょう。
- ・冬の避難も想定し、しっかりとした防寒着、毛布なども確認しておきましょう。

令和4年12月23日～25日 高潮警報発表時

# 港湾施設が市民皆さまの命と暮らしを守りました!!

▼平常時の防潮堤施設周辺



海と岸壁の境目が分らなくなるほど大量の海水が陸地に押し寄せました

(令和4年12月23日～25日)

港湾施設である弥生町地区の防潮堤施設は、中心市街地への浸水など、度重なる高潮災害への対策として、平成29年11月から供用が開始されたもので、その後5年間における高潮による浸水被害を防ぎ、中でも、3日連続で高潮警報が発表され、クリスマスとも重なった令和4年12月末の低気圧接近時では、満潮時刻をピークとして、約20cmから30cmまで海面が上昇し大量の海水が陸地に押し寄せましたが、強固で高い水密性を誇る施設機能の発揮により、休日の家族団らんの場を浸水被害から無事守ることができました。

周辺住民の皆様には、日頃より防潮堤施設の運営に対するご理解とご協力をいただいておりますことに、改めて感謝申し上げますとともに、今後も地域防災に高い意識を持ちつつ、市民皆さまの安心・安全な生活の確保に努めてまいります。